

文責：富永雅也

1. 前立腺とは

前立腺とは男性だけが持っている臓器で、膀胱のすぐ下にあり、尿道を取り囲むように位置しています。前立腺は精液の一部である前立腺液を作り、精子の運動機能を助けるはたらきをしています。

2. 前立腺肥大症とがん

中高年男性に多い前立腺の代表的な病気は、前立腺肥大症と前立腺がんです。前立腺肥大症は内腺が大きくなる良性の病気で、腫大した内腺が尿道を圧迫・刺激することでおしっこがでにくい、トイレの回数が多くなった、おしっこをしたあとすっきりしないなどの排尿に関する症状が現れます。前立腺にできるがんを前立腺がんといいます。前立腺がんは尿道から離れた辺縁の外腺にできるため、治療がすぐに必要な段階にまで大きくなっても、ほとんどの方は症状がでないため、気づくことはありません。無症状のまま転移（主な転移部位は骨）を来すことも時にあります。

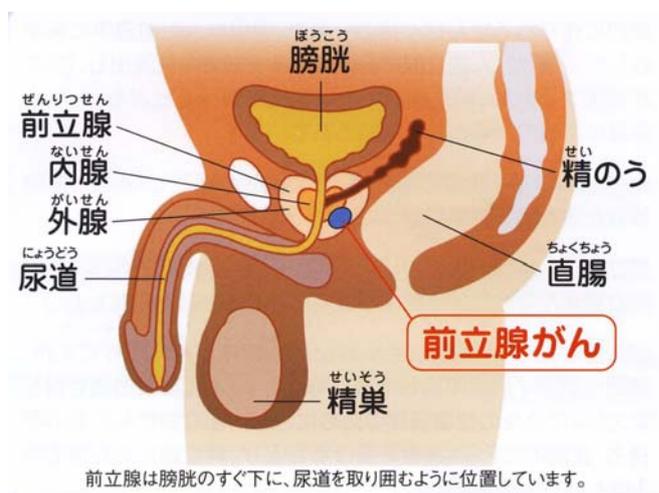
3. 急増する前立腺がん

現在、前立腺がんはわが国でも急速に増加しており、厚労省がん研究班がまとめた2005年のデータでは、全国の前立腺がんの推定患者数は約43,000人にのぼり、男性のがん患者では胃がん、肺がんに次いで第3位で、65歳以上の男性では前立腺がんが第1位です。2009年は1万人以上のかたが前立腺がんによって死亡していると推定されます。死亡数は将来も増加し続け2020年には2000年の約3倍になると言われています。肺がんに次いで男性のがんの第2位になると予測されています。

4. 進行は比較的遅いのですが

前立腺がんは、比較的進行の遅いがんの一つであり、初期には無症状なことが多く、気付かないうちに進行していることがあると考えられます。また、内分泌療法のような全身治療と、放射線照射、手術などの局所治療を単独、あるいはそれらを組み合わせた集学的治療が有効であり、進行状況などに応じて様々な治療選択が可能です。ただし、進行に伴い根治は困難となり、高い治療効果も期待しづらく選択肢も少なくなります。このため、前立腺がん治療においては、より早期に発見し、治療を開始することが成績向上の決め手となります。

■前立腺の位置としくみ



5. 早期発見のためには

PSA 検査は前立腺がんを発見するための血液検査で、ごく少量の血液があれば測定が可能で、通常の血液検査と合せて簡単に行うことができます。最近の研究結果から PSA 検診の受診により前立腺がんが死亡する危険が低くなることがわかりました。PSA 値（～4 ng/mL）が上昇するにつれ前立腺がんの発見率が上昇し、PSA が 4.0～10ng/mL の症例では 20～30%、10～20ng/mL では 30～40%、20～30ng/mL で半数以上から、前立腺がんが検出されています。PSA 検査などで前立腺がんが疑われた場合には、確定診断として前立腺の生検（組織診）が実施されます。前立腺生検は、前立腺内に小さな針を刺入し小組織片を採取し、この組織を観察して悪性（がん）か良性かを判断します。

6. PSA 値が高い人はがん？

PSA 検査を受けると約 8%の人が基準値を超え“がんの疑い”ということになりますが、全員ががんであるわけではありません。その場合前立腺がんと肥大症・炎症などの良性の病気を鑑別する必要がありますので、泌尿器科専門医を受診して下さい。PSA 検査の頻度については、PSA 値に応じて PSA が 1.0ng/mL 未満であれば 3 年後、PSA が 1.0ng/ml 以上であれば毎年の検査をお勧めします。